

令和 6 年度 木佐木保育園 自己評価

評価分類	評価【 A:自信をもって B:良好 C:改善の余地がある D:できていない】		観点	自己評価			
	内 容			A	B	C	D
【1】 運営・経営	組織運営	職員は、園の保育理念、保育方針、保育課程を理解している。	保育課程の理解		○		
		園は、保育指針、保育課程、子どもの実態をもとに、保育計画を作成している。	保育計画の作成	○			
		園は、子どもや地域の実態に対応した特色ある保育内容に取り組んでいる。	園の特色	○			
		園は、子どもと保護者の顔や名前を知るように努力し、園全体で子ども、保護者と関わるようにしている。	園児との対応	○			
		園は個々の子ども、保護者の個人情報の管理の徹底に努めている。	個人情報	○			
		園は就業規則を明確にし労働法制等を順守し、また産休・育休をとれる体制をとり職場環境保全に努めている。	職場環境	○			
		園は、職員の人材確保、適正配置のための方策を講じている。	人材確保	○			
		園は、理事会を開催し、監事の監査を受け、適正な法人運営を図っている。	法人運営	○			
		園は、園長以下、それぞれの職務分掌を明確にして運営している。	職務分掌	○			
	安全管理	園は保育園の園舎内の施設・設備、あるいは園庭などを定期的に点検し安全で適切な状態にしている。	施設	○			
		園は、園内の遊具、教具、備品などの安全管理に努めている。	遊具	○			
		園は、遊具の使い方、交通ルールやマナーなど生活に即した安全教育に努めている。	安全教育	○			
		園は火災や地震などの自然災害に対する防災対策、訓練、また防犯対策が整っている。	防災対策		○		
		園は事故などの緊急事態発生時に対応できる体制が整っている。	緊急体制	○			
		園は、日常的に子どもの健康に配慮し、場合によっては必要な措置をとり、また、健康診断等を定期的実施し、園の保健衛生に努めている。	保健衛生	○			
	職員	園は「安全」に配慮すると同時に「安全」という言葉に委縮せず十分な保育を展開している。	安全と保育	○			
		園は、職員の健康や福利衛生につとめ、職員間のコミュニケーションをとりながら、職場環境の向上に努めている。	職場環境	○			
		園は、職員が個々の子どもやクラスの状況に応じた指導を心がけ、それぞれのカラーを発揮して保育を展開できるような配慮をとっている。	職員のカラー	○			
		園は、職員が自己評価を行い、自ら資質の向上、改善に努めるようにしている。	自己点検	○			
		園は、様々な諸機関が開催する多様な研修会へ職員が参加できる体制に努めている。	外部研修	○			
園は、状況に応じ必要な園内研修をもち、職員の資質向上に努めている。		園内研修	○				
【1】に関する評価	園は、職員の服装、髪型、身だしなみなどや、敬語の使用などの言葉遣いに注意を払うように促している。						
	職員の保育理念や方針、保育課程への理解がまだ十分とは言えず、園としての説明や共有のあり方が課題です。安全管理面では突起物の緩衝材設置やフェンスの増設、猫害対策など、園環境の改善を進めました。ただし、備蓄品の期限管理が徹底できず、ローテーションに時間がかかりました。会議や研修では、職員が目的意識を持ち、内容を充実させて取り組む姿勢が見られ、今後も活かしていきたい点です。						
【2】 保育	保育内容	園は、その保育内容が養護と教育が一体となって展開されるように努めている。	養護と教育	○			
		園は、子どもがそれぞれの興味関心、能力に応じて、全身を使い、全感覚を使って能動的に活動することができるように努めている。	健康	○			
		園は、子どもが、生活の中で異年齢交流をはじめ、さまざまな子ども、人との関わりがもてる機会をつくっている。	人間関係	○			
		園は子どもが、周囲のさまざまな環境に好奇心や探究心をもって関わるができるように工夫している。	環境	○			
		園は、子どもが経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話を聞こうとする意欲や態度が育つように配慮している。	言葉	○			
		園は、子どもが美しいものや、感動するものに触れ、感じたことや考えたことを自分なりに表現できるように工夫している。	表現	○			
		園は、幼保小連携に積極的に取り組み、スムーズに接続できるようにしている。	幼保小連携	○			
		園は、子どもが「食」に関心を持ち、「食を営む力」の基礎をつくるために食育に計画的に取り組んでいる。	食育	○			
		園は、行事が、それぞれの特色を活かし、保護者、関係者、地域の人たちなどが楽しく参加できるように工夫されている。	行事	○			
	特別支援	園は、障害のある子どもの指導計画をたて、統合保育を実践している。	特別支援	○			
		園は、障害のある子どもを柔軟に保育できるような環境を用意している。	特別支援2	○			
	保育環境	園は、乳幼児が心地よく健康に過ごすことができるような環境、雰囲気を整えている。	環境全般	○			
		園舎は、子どもたちの遊び、生活、保護者活動にも対応できている。	園舎	○			
		園は、園庭・園地を子どもたちの感性、生育を助ける空間として整備がなされている。	園庭・園地	○			
【2】に関する評価	園は、絵本紙芝居、あるいは教育書物などを十分に配置し、子どもや保護者に利用しやすい環境を用意している。						
	日常の保育の中で、全職員が子ども一人ひとりの特性や発達段階を共有し、柔軟に対応できている点は大きな成果です。特別支援では療育センターの先生との連携により、園児の困り感に応じた支援体制を整えることができました。定期的な作業療法士の先生によるアドバイスも有効でした。一方、小学校との交流は形式的にとどまり、子ども同士の直接的な関わりが少なかったことは今後の改善点です。						
【3】 子育て支援	教育相談	園は、園児や卒園児の保護者からの子育ての相談を受けている。	相談	○			
	未就園児	園は、未就園児が親子で楽しめる機会を設けたり、子育て相談を受けるなど、地域の子育て支援のための取り組みに努めている。	未就園児		○		
	子育て支援	園は、預かり保育に取り組んでいる。	預かり保育	○			
【3】に関する評価	未就園児との関わりがほとんど持てなかったことから、園としての地域子育て支援機能の発揮には課題が残りました。一方、一時預かりの利用者数は昨年度より増加しており、地域の保護者からのニーズの高まりを実感しています。今後は、一時預かりを含めた継続的な支援体制の強化と、未就園児や保護者との接点づくりを意識した取り組みが必要です。						
【4】 家庭、地域との連携	家庭	園は、保育の方針や方法について保護者に十分説明し、保護者から信頼を得て保育を行っている。	信頼関係	○			
		園は、乳幼児の育ちに必要なことを、保護者、あるいは関係機関と密接な意見交換をもち、必要な情報の共有に努めている。	個別対応	○			
		園は、アレルギー、自立の遅れ、育ちに関わる諸問題について家庭との連携をとりながら適切に対応している。	育ちの諸問題	○			
		園は、保護者の要望を真摯に受け止めて、教育的な意味付けをもったうえで実施している。	要望	○			
	園は、保護者からのクレームがあった場合に、園として誠実に対応している。	クレーム	○				
地域	園は、地域への散歩、小学校との交流など地域と密着した活動に努めている。	交流	○				
【4】に関する評価	入園前には、園長や保育主任が重要事項説明書などを用いた丁寧な説明を行い、家庭との信頼関係づくりに努めました。年2回の保護者懇談会では、園でのこどもの様子や家庭での困りごとを共有し、相互理解を深めました。さらに、保育ドキュメンテーションや写真の活用、アプリを通じた情報発信により、保育の透明性が高まり、保護者からの安心感にもつながりました。						
総合評価 (園長)	今年度は、安全管理の改善や保育の質向上、特別支援への対応強化など、全体的に前進が見られました。特に職員がこどもの特性を共有し、柔軟に対応できた点は、日々の積み重ねの成果です。一方で、保育理念の共有不足や備蓄品管理の不備、未就園児や小学校との連携不足といった課題も明確になりました。今後は、理念の浸透と組織的な情報共有を進めるとともに、地域に開かれた園づくりを目指してまいります。						